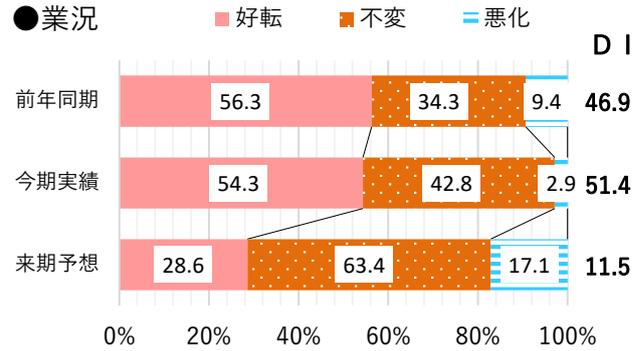


観光業

業況、売上、採算

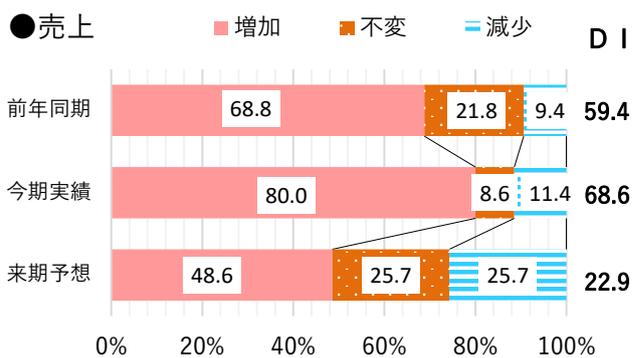
今期（2025.1～3）の業況判断DIは51.4で、前年同期（2024.1～3）と比べ4.5ポイント上昇しました。

来期（2025.4～6）の業況DIは39.9ポイントと大幅に低下すると予想しています。



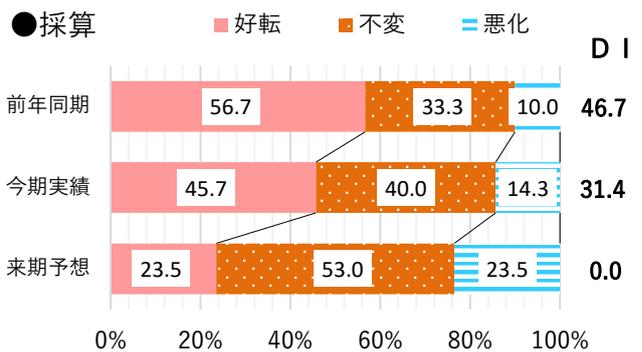
今期の売上DIは68.6で、前年同期と比べ9.2ポイント上昇しました。

来期の売上DIは45.7ポイントと大幅に低下すると予想しています。

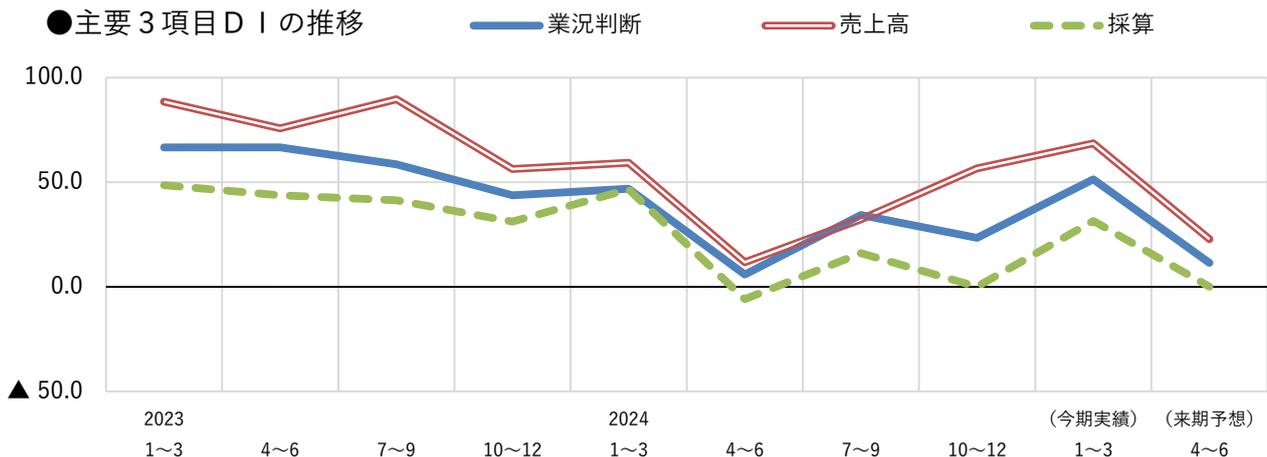


今期の採算DIは31.4で、前年同期と比べ15.3ポイント低下しました。

来期の採算DIは31.4ポイントと大幅に低下すると予想しています。



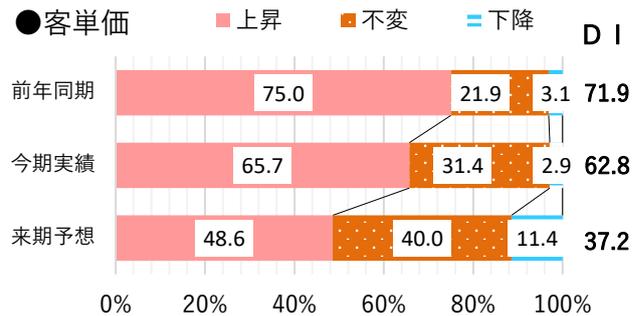
●主要3項目DIの推移



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

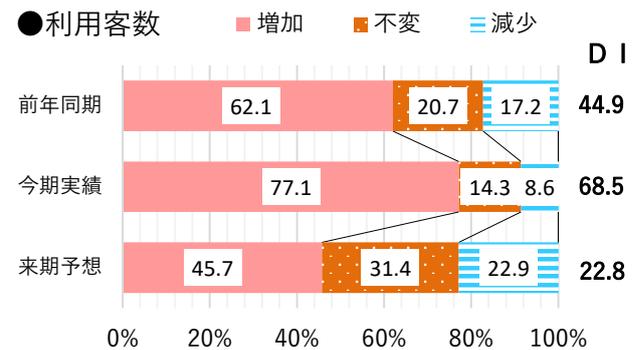
今期の客単価DIは62.8で、前年同期と比べ9.1ポイント低下しました。

来期の客単価DIは25.6ポイント低下すると予想しています。



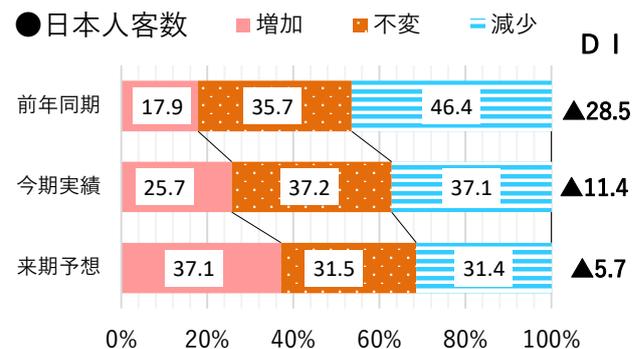
今期の利用客数DIは68.5で、前年同期と比べ23.6ポイント上昇しました。

来期の利用客数DIは45.7ポイントと大幅に低下すると予想しています。



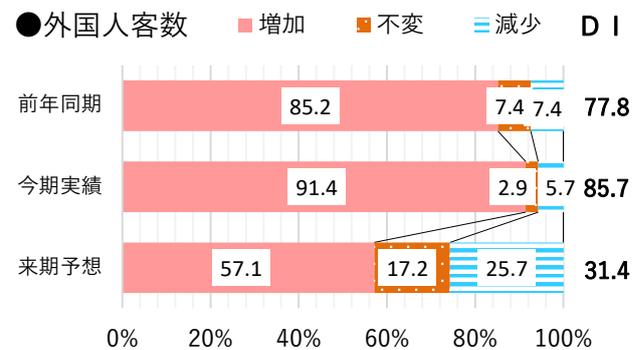
今期の日本人客数DIは▲11.4で、前年同期と比べ17.1ポイント上昇しました。

来期の日本人客数DIは5.7ポイント上昇しますが、マイナス水準が継続すると予想しています。



今期の外国人客数DIは85.7で、前年同期と比べ7.9ポイント上昇しました。

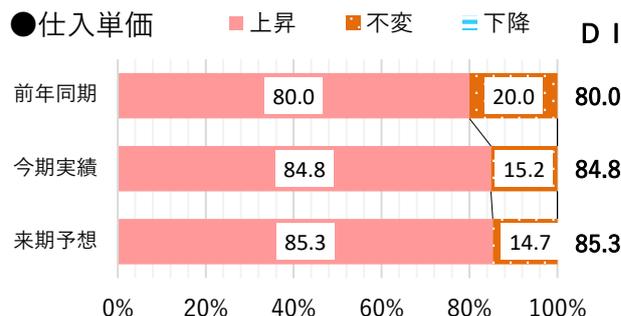
来期の外国人客数DIは54.3ポイントと大幅に低下すると予想しています。



仕入単価

今期の仕入単価DIは84.8で、前年同期と比べ4.8ポイント上昇しました。

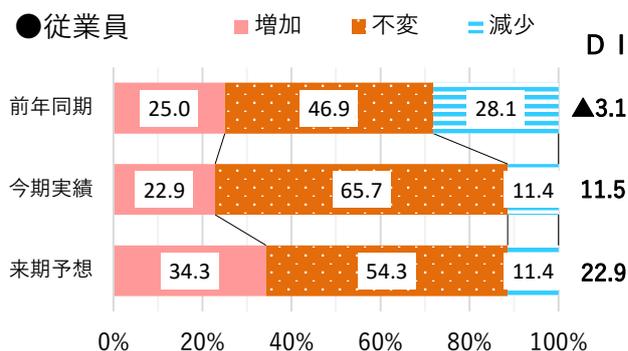
来期の仕入単価DIは0.5ポイント上昇し、横ばいに推移すると予想しています。



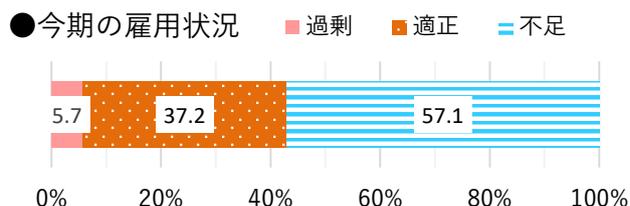
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは11.5で、前年同期と比べ14.6ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期の従業員DIは11.4ポイント上昇すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は5.7%、適正であると回答した企業の割合は37.2%、不足していると回答した企業の割合は57.1%でした。



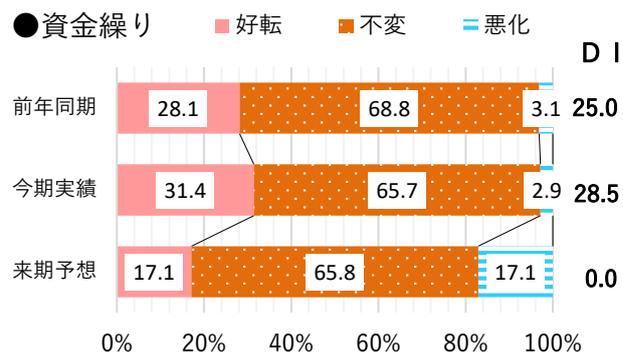
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答で、34.3%を占めました。

従業員数変化	雇用状況	回答数
増加した	過剰	1
	適正	2
	不足	5
不変だった	過剰	0
	適正	11
	不足	12
減少した	過剰	1
	適正	0
	不足	3

資金繰り、設備投資

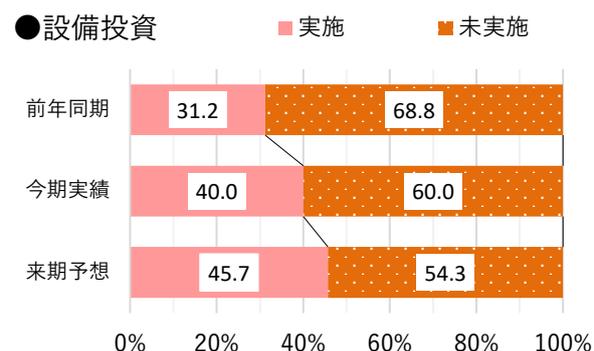
今期の資金繰りDIは28.5で、前年同期と比べ3.5ポイント上昇しました。

来期の資金繰りDIは28.5ポイント低下すると予想しています。



今期の設備投資は40.0%が実施と回答し、前年同期と比べて8.8%上昇しました。投資内容は、1位が「建物」、2位が「車両運搬具」、「OA機器」（同位）の順です。

来期は45.7%が設備投資を計画していると回答しています。

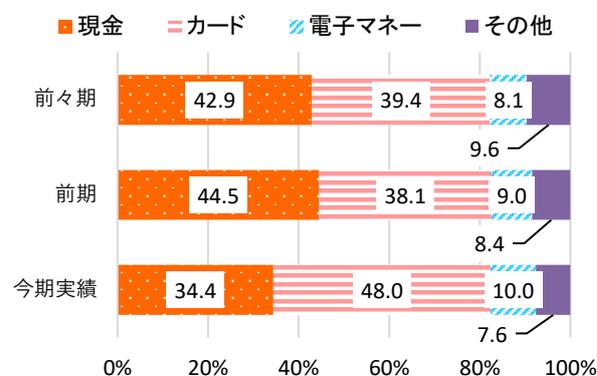


今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位がカードで48.0%、2位が現金で34.4%、3位が電子マネーで10.0%、4位がその他で7.6%となりました。

その他で挙げられた決済方法は、掛売り、クーポン券、銀行振込、ポイント決済、オンライン決済（d払い、paypay等）、バーコード決済の利用です。

●今期利用客の決済方法(%)

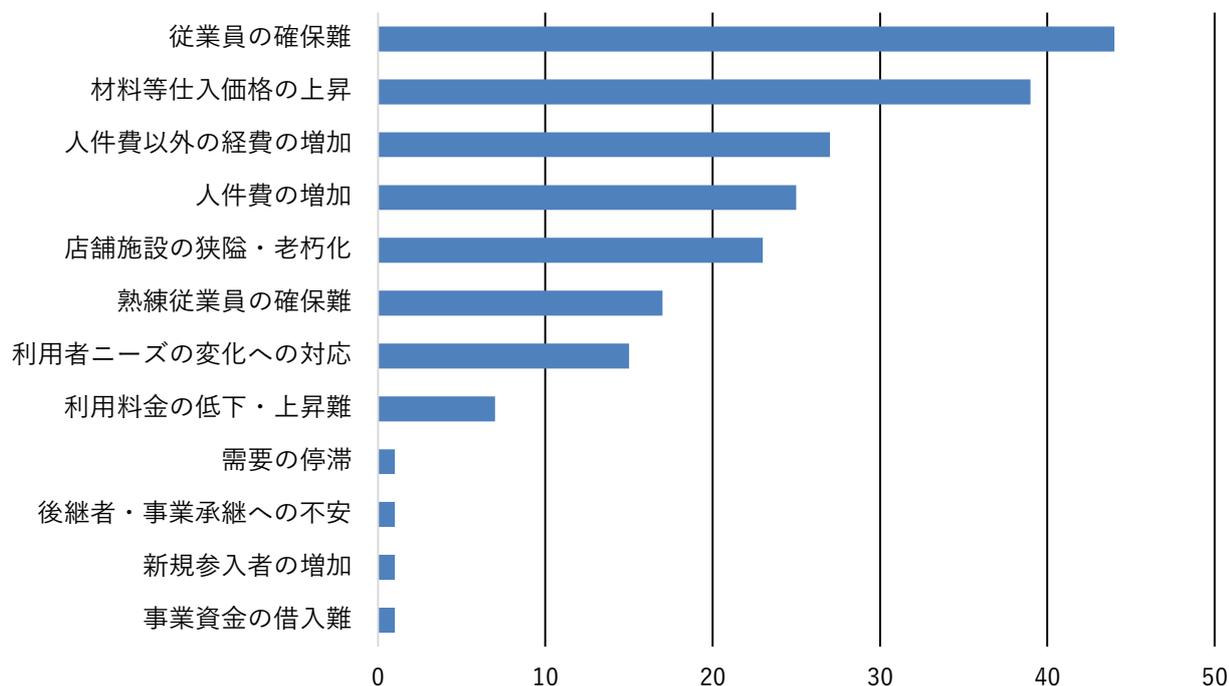


客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は66.5%でした。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「材料等仕入価格の上昇」、3位が「人件費以外の経費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 1～2月はインバウンドが多かったが、3月からは日本人客が増加している。(飲食店)
- インバウンドが急増した。月間売上に対しておよそ半数が免税であった。(飲食店)
- ずっと多忙なのでスタッフの負担が大きい。(飲食店)
- 人材確保以外は好転している。(飲食店)
- 例年、冬期は雪祭り以外、観光客数は減少するが、今年は外国人客が途切れず、前年同期比で微増した。特に米国からの観光客が増加した。日本人客は減少し、購入意欲も低下している。売上高は高価格商品の売行きが良くてやや増加したが、出荷量は減少した。原材料費が変わらず増加しているので、採算面の好転につながっていない。人手不足も売上を増やせない制約要因となっていて、ますます深刻さを増している。(土産品)
- 売上額は増加したが、仕入価格も増加(利幅は不変)。人材確保が難しく、適正人材と教育をしていく。最賃(春闘)の関係で人件費の増加が圧迫する。(土産品)
- インバウンドの増加により、売上が増加した。(土産品)
- 例年に比べ、インバウンドが活況であった。(土産品)
- 店舗の認知拡大と観光客の増加。(土産品)
- インバウンドの利用が増加した。来期も期待できる。(レンタカー)
- 人材確保が出来ず、規模を縮小せざるを得ない。(レンタカー)
- 仕入原価、光熱費、人件費の上昇により現状の経常利益はマイナスの状態にある。(ホテル)
- インバウンドが好調で、長期滞在の傾向がある。(ホテル)
- インバウンドにより売上増加に繋がった。(ホテル)
- 想定以上のインバウンド需要があった。(ホテル)
- 今期の2月は天候不順により、欠航が多く昨年同期に比べ売上が減少した。(水運業)

[来期の業況について]

- 人件費、雑費を削減予定。インバウンドの増加が見込まれる。(飲食店)
- 仕入単価、人件費が更に上昇すると思われる。(飲食店)
- 日本の観光客、地元客が増加見込。(飲食店)
- 外国人客増・売上増を見込みたいが、堅調に見て、業況は前年同期と同程度と予想する。原材料の高騰、人件費の増加などが確定的で、採算面は厳しくなると予想している。従業員の確保に努力しているが、人件費の高騰も深刻である。外国人従業員の確保など全市的な取り組みを切に望む。(土産品)
- 1～2月はオーバーツーリズムと報道があったようにインバウンドが多かった。3月からは通常に戻っているので一時的なものであった。(土産品)
- 4～6月は通常どおりか物価高の影響で、楽観はできないと思う。(土産品)
- 冬期イベントの終了、オフシーズン入りにより業況は悪化する。(土産品)
- 店舗の認知拡大と観光客の増加。(土産品)
- 人材確保が出来ず、規模を縮小せざるを得ない。(レンタカー)
- 今期と同様であるが、期間(閑散期)対応として経費削減を予定している。(ホテル)
- 仕入原価、光熱費、人件費の上昇による経常利益のマイナスが続く。(ホテル)
- インバウンド利用が増加しているが、日本人利用が減少している。(ホテル)
- 今期と比較するとインバウンドのピークが過ぎて減少する見込。(ホテル)
- 大きな需要変動はなく、仕入れは更に高騰してくる予想する。(ホテル)
- インバウンドが好調で、長期滞在の傾向がある。(ホテル)
- 4～6月は、客数、売上とも増加が見込まれる。(水運業)
- 新規オープンのレストランの業績が好調であり、それにより一般来場者が増えたが、設備投資に費用がかかったため収益は変わらなかった。(娯楽業)
- 設備の修繕があり、予断を許さない状況である。(娯楽業)